

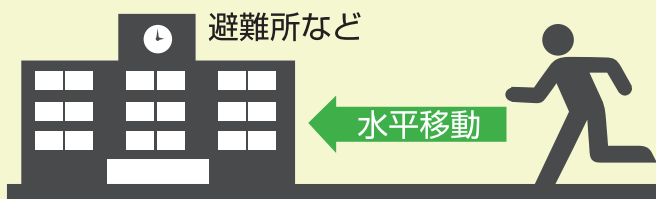
3. 避難を知る

3-2. 避難行動とは

避難行動には、自宅外の安全な場所へ移動する「立退き避難」と自宅の2階など屋内でより安全な場所へ移動する「屋内安全確保」があり、地域や状況によって避難の方法は異なります。特に、大雨や夜間における避難の場合は、自宅外への避難途中に被害にあう可能性があるため、避難するタイミングに応じて、最も適切な方法をとりましょう。

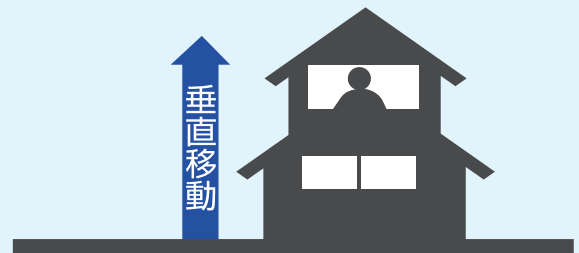
また、感染症対策も踏まえて、立退き避難・屋内安全確保を選択しましょう。

自宅の外へ避難（立退き避難）



河川の近くや浸水深が大きくなる地域、土砂災害のおそれのある地域など、そこにいることが危険な場合は、避難所などへ立退き避難をしましょう。立退き避難は災害が発生する前に行うことが原則です。

自宅に待機（屋内安全確保）



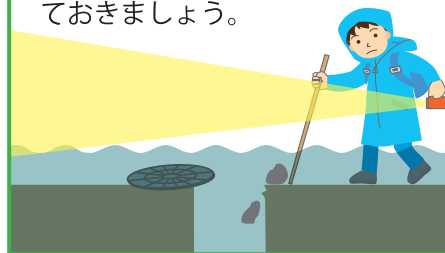
屋外へ出ることが危険な場合や浸水深が小さい地域では、自宅にとどまり2階へ移動するなど、屋内安全確保をしましょう。

3-3. 避難の注意点

避難所が近くにないときは、近所の丈夫な建物の上の階へ一時的に避難しましょう。



夜間の避難は、周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しておきましょう。



高齢者や子ども、疾患のある方、体の不自由な方など避難に時間のかかる方は、早めの避難が必要です。避難に支援が必要な方に地域のみんなで協力しましょう。



避難は自らの判断で！避難情報や気象情報などの情報をもとに、早めの避難を心がけましょう。



避難指示などは、危険が迫ったときに出示されますので、速やかに避難しましょう。



避難するときは、動きやすい格好で。2人以上での避難を心がけましょう。

